

## マックス・シェーラーの共感論を用いた恋愛のシチュエーションの分析

吉村 葵

私たちが一般に恋愛というとき、それはどのようなものを意味するか。私たちは「愛」や「恋愛」というものについて話すときに無意識にそれを定義しているが、その定義は人によって細かい部分が異なる。さらに言えば、恋愛というものは愛の一部として考えられることがほとんどであるが、本当にそう言えるのだろうか。

本研究では哲学的な愛の概念を用い一般的に恋愛とみなされているシチュエーションにおける「恋愛」を分析する。それによって、社会で恋愛と認識されているものは、愛だと言えるのかということや、恋愛は愛の部分集合のようにとらえられることが多いがそれは正しいといえるかについて明確にする。

分析方法として、マックス・シェーラーの共感論により愛の概念を再構成した横山陸の論を用いる。横山はマックス・シェーラーの愛についての議論は神の議論や価値を結びつけたため、「かけがえのなさ」をめぐる愛をうまく説明できなかったとしている。そこで横山はマックス・シェーラーの愛の概念の基礎となる、間主観性理論や共感論から愛の概念を再構成する。横山は、他者への追感と共感によって認められた他者の他性が、人格愛における相手をもっと知りたいと思う自発性によって「かけがえのなさ」に代わっていくのだと述べる。

本研究ではこの論に則り、五つの恋愛映画を分析した。その分析では、恋愛映画において人格愛における自発性が見られるか、また、「かけがえのなさ」の形成が見られるかに焦点を当てた。分析の結果、ほとんどの恋愛映画において、人格愛における自発性と「かけがえのなさ」の形成が見られたが、一部見られないものもあった。このことから、一般に恋愛とみなされるものは愛の部分集合ではないということが明らかになった。一方で愛と恋愛の違いについては明確にならなかった。今後は愛と恋愛の違いについて明確にすることが課題として挙げられる。

(指導教員 横山幹子)